

---

# 儚い願い、継がれる思い

メイローム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

儂い願い、継がれる思い

### 【Nコード】

N3343H

### 【作者名】

メイローム

### 【あらすじ】

「ねえねえ、みんな、今週の土曜日って空いてる？」その言葉が始まりだった。頼まれたのは、ただの名前付けのはずだった。だが、コナンと哀たちは、悲しく許されない事件に関わってしまうことになる。途中で、不快に感じる場面があるかもしれない。コ哀目指しています。新蘭派にはオススメできません。初投稿です…完結できるように頑張ります。よろしくお願いします。

〇〇…きっかけ(前書き)

〇〇田舎します。

## 00:きっかけ

貴方は、ふざけただけかもしれない。

私が貴方をからかったから、ちょっとした仕返しくらいの気持ちだったのかもしれない。

それでも、嬉しかったのだといったら、貴方はどう思うかしら…

貴方にそんな気はなくても、たかが、動物の名前でも、貴方は私を選んでくれた。

蘭さんじゃなくて、私を

「ねえねえ、みんな！ 今週の土曜日って空いてる？」

学校の休み時間。

朝からどこかそわそわしていた歩美が、待ってましたとばかりに、元気よく仲の良い少年探偵団に声をかけた。

「はい。空いてますよ」

「オレも空いてるぞ」

すぐさま、光彦と元太が答える。それに、歩美はやった！ と喜んで、じゃあ…と、まだ答えを返してこないコナンと哀に、期待のこもった視線を向けた。

その視線に空いてないなどと、よほどのことがなければ、言えるわけもなく、

「ああ、俺も特に用事はないぜ。灰原は？」

「今のところ用事はないわね」

二人は苦笑を交わしながら、答えを返した。

歩美はニツコリと笑い、

「よかった！ じゃあ、みんなで行けるね！ 土曜日、歩美の家に十時に来てね！」

それだけ言うと、サツサと自分の席へと戻っていく。どこに行くのか、何があるのか、何も言っていない。

「おい、歩美。それはいいけどよ、何があるんだよ。うな重あるとかか？」

「元太君じゃないんですから、そんなわけないでしょう。どこに行くんですか？」

「エへへ、内緒だよ。土曜日までのお楽しみ」

「何だよ、教えるよ」

「そうです。教えてください」

「だめ」

一瞬ポカンとしたあと、慌てて後を追いつけた光彦と元太の問い掛

けにも、歩美はニコニコしたまま答えようとはしなかった。

その様子を微笑みながら見ていた、コナンと哀だったが、

「俺たちは、どこに連れていかれるんだろうな」

「さあ？ 吉田さんだから、変なところじゃないでしょうけど…」

「あんだよ、その目は？」

「あら、ごめんなさい。あなたと一緒に出掛けて、何もなかったことがないものだから」

「ついで…と皮肉る哀に、おめえな…とコナンが顔を歪める。

と、気づけばいつものような言い合いを、授業が始まるまでし続けたのだった。

この時は、その日の出来事が、哀に、そしてコナンにとっても、後でどれだけ意味を持つことになるのかなんて、想像もしていなかった。

## 〇〇：きっかけ（後書き）

拙い文で申し訳ありません。うまく表現しきれないことが多く、頭を捻りつつ執筆しております。初投稿で連載と無謀とも言えますが、ご意見ご感想をいただけると幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3343h/>

---

儂い願い、継がれる思い

2010年11月5日02時03分発行